

もっと身近に 警察を感じませんか

代表取締役 家喜 正治

数年前の話になりますが、所用のため津のスーパーで買い物をしていました。そこに、おばあちゃんに連れられた子どもが泣き叫んでいました。お菓子のおねだりをしていたのか、大泣きです。するとおばあちゃんが一言「泣きやまへんかったら、お巡りさんそこ連れて行って、しかってもらうで」。それを耳にした私は、いまだにこんな人がいるんやなあと、ちょっとびっくり。このおばあちゃんにとっては、警察官は怖くておっかない人との感覚をお持ちなのでしょう。この紙面を見ている読者の方は、如何に思われますか。

三重県内には18の警察署があり、365日昼夜問わず、我々の暮らしの安全を守ってくれています。その18署の全てに「警察署協議会」という名称の会が置かれています。この協議会は、警察署長が地域住民の要望意見を直接に聞き、誠実に対応することにより警察署の業務運営を改善するとともに、十分な説明を行い、理解と協力を得る場としての役割を持っています。警察法53条の2に定められており、全都道府県にあります。

そもそも、なぜこのような協議会が置かれるようになったのでしょうか。平成11年から12年にかけて神奈川警察等で様々な警察不祥事が発生しました。平成12年7月、警察刷新会議が国家公安委員会へ「警察刷新に関する緊急提言」を提出。同年8月、国家公安委員会と警察庁が「警察改革要綱」を策定しました。前述の緊急提言では「地域における有識者からなる警察署評議会（仮称）を設置し、警察と住民間で共通の問題意識を持ち、警察が住民の声に基づいて行動するような仕組みが確立されなければならない」とされました。これを受けて、警察法が改正され、警察署に警察協議会を置くものとされ、平成13年6月から警察協議会制度が発足しました。警察改革が推進される中での、取り組みの一つだと思います。

協議会の定数は各署毎に県条例で定められており、多いところでは13人、少ないところで5人、伊賀署に於いては7人となっています。私事ではございますが、この5月31日まで伊賀署警察協議会委員の委嘱を受けておりました。男性4名、女性3名から構成される委員は、年齢や地域、職種も様々で、幅広い分野から意見が寄せられるように配慮されています。年に4回開かれる協議会では、警察署には耳の痛くなるような意見も多数述べられ、それについて真摯に応えて頂いていると毎回感じていました。女性の方々の発言は、時として男性目線では出てこないような内容も多く、感心させられることしきりです。なお、会議は原則公開されており、委員名、協議内容は三重県警察のホームページでも公開されています。(https://www.police.pref.mie.jp/council_police/)

平成28年5月に、伊勢志摩サミットが開催されたのは記憶に新しいところ。全国から多数の警察官が警備の応援に来てくれました。しかしながらどれだけ多数の警察官を配備しても、テロ対策は完全とは言えません。それを補完する重要な要素として、地域住民の普段からの情報提供が大切な役割を持ちました。不審者を撃退する大きな力となるのが地域の目なのです。都会では、蛇が庭に出てきたら、警察に駆除の依頼をする人もいるとか。蚊取り線香を焚いたら逃げていくとおばあちゃんから教わりました。蛇退治に警察官の時間が取られる間に、車上荒らしが起きたらどうするのでしょうか。何でもおんぶにだっこするのではなく、自分の住む街の安全を警察署と共に作り上げていくという気持ちが必要だと思います。お巡りさんは、正義の味方でやさしい人ばかりですよ。

橋本の
つばき

北田さん初めての渓流釣りですか！女性の釣り人も増えてきているそうですし、これを機に北田さんも釣りに目覚めるかもしれませんね！

初めて釣れた魚のお味は美味だったことだと思います。何事も新しいことをチャレンジできる機会があるのならこれをチャンスだと思って、

やってみることも大切かもしれませんね♪
警察と言われると、私は祖父の家に行った幼少期に一度迷子になり、お世話になった記憶

があります。現住所を尋ねられたのですが、他府県に住んでいる祖父の住所を知らず、現在自分の住んでいる住所を言ってもわかるはずが

ないと子供心に思い、困りましたがその時にも警察の方が優しく対応してくれた、という記憶がかすかに残っています。

アポロ新聞

初めての渓流釣り

総務課 北田 文菜

少し前の話になりますが、皆さん今年のゴールデンウィークはどのように過ごされましたか？ この大型連休を利用してお出かけされた方、人混みを避けてゆっくり過ごされた方、様々かと思います。私は超インドアにも関わらず、初めて渓流釣りに挑戦してみました。

渓流釣りとは

渓流とは川の上流で、主に山間を流れる部分をいいます。その渓流に住む魚を釣るのが渓流釣りで、代表的な魚はイwana、ヤマメ、アマゴになります。

いろいろな釣り方

- エサ釣り**…実際に魚達がいつも食べているエサ、または食べられるエサを針につけて釣ります。
- 毛バリ釣り**…毛バリは人間が作ったもので実際に食べることは出来ませんが、これを魚に本物と勘違いさせて釣ります。毛バリ釣りには日本古来からあるテンカラ釣りと、外国から入ってきたフライフィッシングという方法に分けられます。
- ルアーフィッシング**…これも外国から入ってきた釣りで、普段小魚などを食べている魚の習性を利用し、小魚などに似せて作られたルアーを使用して釣ります。ルアーフィッシングに関しては、どちらかというと渓流よりもブラックバスなどを対象としたダム湖などでの釣りが有名です。

まずはエサ釣りから挑戦。針にエサをつけて竿を振ります。が、全く思うように振れません（泣）。自分でここと思うポイントを決めても違うところに行ってしまう、糸もどこにいったのか探さないと分からない始末…。叔父に何度もレクチャーを受けて、何とか少しずつ竿を振れるようになってきました。その後も少しずつ場所を変えながらエサ釣りを続けましたが、当然ながら初心者の私は一匹も釣ることは出来ませんでした。

そこから少し上流に上がり、次はテンカラ釣りに挑戦。これも最初は全く竿が振れていませんでしたが、徐々に自分の思うポイント近くに飛ぶように。ですが、やっぱり魚は飛びついてくれません。まぐれで一匹でも釣れないかなという淡い期待も消えてしまったその時!! 竿に違和感を感じるとアマゴが食いついている!!! 慌てて叔父に引き上げてもらい、なんとアマゴを一匹釣ることが出来ました！ ビギナーズラックって本当にあるんですね（笑）。結局この日に釣れたのはアマゴ一匹だけでしたが、緑豊かな自然の中で釣りをするのもいいものだなと感じました。釣ったアマゴは持ち帰って、おいしく頂きました。また機会があれば挑戦してみようと思います。

参考HP <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~y-hara/home/keiryu/keiryu.html>

